

令和7年9月9日

第1学年保護者様

西の原中学校家庭教育学級
主事（教頭） 東 健一

第4回 家庭教育学級のお知らせ

秋晴の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、下記の通り、家庭教育学級を開催いたします。ご多用とは存じますが、是非ご出席くださいますようお願い申し上げます。

記

- 1 日時 令和7年9月25日（木） 10:00～11:30
- 2 場所 印西市役所3F大会議室
- 3 内容 今回は、家庭教育シアターフォーラム（印西市教育委員会主催）への参加を家庭教育学級に代えさせていただきます。
- 4 テーマ 子育て（映像視聴「SOSが届いたら～相談にのれる心構え～」）
※2ページ目参照
近年若年層の自死が大きな社会問題となっていますが、子ども達のSOSを、周囲の大人達がどのように受け止めていくのかについて、発達段階に合わせた具体的な会話例をとおして、学んでいきます。
- 5 講師 印西市教育委員会 家庭教育指導員
- 6 その他
 - ・参加の有無について、9月18日（木）までにフォーム（[スクリーン2ページ目のURL](https://forms.gle/6ZoNqJX4aAjQu2VN8)）にて、ご回答くださいますようお願いいたします。（<https://forms.gle/6ZoNqJX4aAjQu2VN8>）。
 - ・入場券等はありませんので、ご安心ください。

《参加予定校》

- ・大森小
- ・原小
- ・西の原中

家庭教育 シアターフォーラム

指導者・保護者向け 約18分 文部科学省選定

SOSが届いたら ～相談にのれる心構え～



監修のことは

2016年の自殺対策基本法改正以来、特に若年者層の自殺対策は重点課題として対策が練られています。しかし、児童生徒の自殺者数は2017年以降増加し続け、コロナ禍においてさらに急増しました。こうした中で「SOSの出し方教育」の実施が急務となっています。ところがカリキュラムや教材は各自治体で作成することになっており、どのようにSOSの出し方教育をしていけばよいのか教育現場は困惑しているのが現状です。本教材は、小学校・中学校・高等学校の児童生徒に対して、SOSの出し方について発達段階を踏まえ作成されました。

また、せっかくSOSを出しても受け止め方が悪いと「SOSを出さなければよかった」「言ってもやっぱりだめだった」と子どもをさらに窮地に追い込む可能性があります。そのため、子どもがSOSを出した時にどのようにSOSを受け止めればよいのか、教職員・保護者・子ども支援関係者に対する啓発のための作品も加えました。

とにかく悩み事や生きづらさを抱える子どもたちが、誰かに助けを求める援助希求行動を移せるようになるにはイメージしやすい教材が必要です。本教材は、SOSの出し方・受け止め方の基本的で普遍的な姿勢を示し、具体的な会話例を通してわかりやすく学べる内容となっています。



元防衛医科大学校
医学教育部 教授
医学博士 高橋 聡美

【本日の流れ】

- (1) DVD視聴 (約18分)
- (2) フォーラム
 - *感想や子育ての悩み等を交換し合ひましょう。
- (3) 家庭教育指導員より

【教材の概要】

- ❖ 増え続ける未成年の自殺件数
- ❖ 悩み事や生きづらさとは
- ❖ 子どもがSOSを出したら
- ❖ ありのままに受け止める
- ❖ 自殺を予防するには